

## <授業レポート>

「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を振り返って

〇〇高等学校（農業） 教諭 〇〇 〇〇

### 1 実施授業と実施時期

生産流通科1年 「農業と環境」 令和2年10月29日（木）3、4限目

### 2 内容

3限目：イネの収量調査データを用いた実験検証（グループ学習）

4限目：プレゼンテーションソフトを活用し、秋冬野菜に関する管理や病害虫の問題作成、解答

#### (1) 3限目の授業の様子

- ・前時に調査項目のデータから作成しそれぞれに与えられた「エキスパート課題」から導き出せることを書き出しておく。
- ・座席の縦列を1グループに設定し、前時の気づいたことを順番に回ってきたホワイトボードに書き込んでいく。（制限時間は1人30秒）
- ・グループの意見を黒板に貼りだし、実験の検証を行う。（生徒は気づいたことをメモする）
- ・この時に、他のグループに示したエキスパート課題を配布する。

#### (2) 4限目の授業の様子

- ・教室入室時にくじ引きで自分が作成する問題を選ばせる。
- ・教科書を使用し、その後インターネットを使って解答を導き出すヒントを3～5作る。
- ・プレゼンテーションソフトにヒントを入力しアニメーションをつける。
- ・10分間の学習時間に、全員のスライドを1つにまとめる。
- ・問題をモニターに流し、エクセル画面に答えを入力する。

### 3 「主体的・対話的で深い学び」の授業実践について考えたこと（研究協議より）

#### (1) 良かった点

- ・教える授業ではなく、考えさせる授業であり、生徒は考えるくせがつくと感じた。
- ・調べる力と判断力が涵養されると思った。（データの解析力）
- ・生徒が集中して取り組んでいた。
- ・対話的な学びが工夫されていた。
- ・生徒のスキルが高い。（これまでの指導が結果になっている）
- ・生徒が何をしているのか内容をしっかりと理解していた。
- ・調査データは生徒が調べた生のデータであったので良かった。

#### (2) 改善すべき点

- ・時間がかかっても、生徒に発表をさせるべき。（アウトプットが大切）
- ・正しいかの検証をしっかりすることが深い学びにつながる。（次時に行うのか？）
- ・ホワイトボードの文字の大きさに工夫が必要。（書画カメラなどのICT活用も検討）
- ・他の人の意見を聞いて考える時間、振り返りの時間がもう少しあれば良かった。

### 4 感想

農業教育において、プロジェクト学習はすべての教科の中心となっている。1年次の専門の授業において、プロジェクト学習法（「課題設定」→「計画の立案」→「実施・実践」→「反省・評価」→「次の課題への発展」）の手法を学ぶことが、2、3年生の専門性の深化や、3年次の課題研究への取り組みにつながっていくと考えられる。このことから、実習と座学がリンクした内容を常に心掛けて進めている。

今年度は、コロナウイルス感染拡大防止のため、「対話的」の部分でよく行われるグループが顔を突き合わせの話し合いが難しい状況であった。そこで「ホワイトボードを使って自分の意見を仲間に伝える」ことや「個人で作ったものが全員で1つになる」といった工夫をし、連帯感をもたせた授業を行った。制限はあるが、アイデア次第で授業の在り方は無限の可能性のあることを再確認できた。